

## 越前町議会・令和6年3月定例会一般質問【笠原秀樹議員】

(令和6年3月7日 午前11時1分 開始)

- 12番（笠原秀樹君） 本年1月1日、例年どおり新年に当たり年始回りを終えて一息つきました16時10分、スマホの激しい警戒音で石川県能登半島地震が知らされました。我が家のぼろ家ががたがたと音を立てて揺れるのを感じ、震度7.6報道を聞いて、これは大変な災害になると思ったところでございました。ちょうど小学3年の孫が家におりまして、彼女はすぐテーブルの下に入りましたが、じいちゃんら、ばあちゃんらもやらなかったものですから、「じいちゃんらは死んでまうわ」と笑われましたが、これはやっぱり日頃から学校で先生が指導しているということを彼女が自ら知らせてくれたんじゃないかなと思います。しかし、今回の場合は、恐らくこれもし夜だったら、まだまだひどい災害になったんじゃないか。今回はそれよりも外に飛び出したほうが助かったんじゃないかなという思いも持ったところでございました。

NHKテレビの山内泉アナウンサー、今までに聞いたことのないような大声で、大津波警報発令で今すぐ高台に避難する、少し命令調で、避難してくださいと逃げてくださいと連呼されておりました。その呼びかけで、すぐ行動を取った人たちも多かったと思いますが、今回の津波は予想より早かったのと、家屋の下敷きで逃げることもできなかつた人もおられたとのことで、また、小さい子どもさんたちの中には、あまりに激しい言葉に恐怖を感じたということをおられた方もおられたとのことでございました。しかし、山内アナウンサーは金沢局に務めた経験から、地域の人たちのために声を張り上げられたんだと私は思います。自分のことのように人のためにできることを人々に知らせた責任感を強く感じたところでございました。

ただいま、おかえり、そのあるべき生活が一瞬にして崩壊された能登半島地震では、亡くなられた方、現在241名、安否不明の方7名、家屋の全半壊は7万棟以上と報道されております。亡くなられた方々に心より哀悼の意を表しますとともに、被災された方々に心よりお見舞いを申し上げ、一日も早い復旧復興を期待するものでございます。

それでは、議長のお許しをいただきましたので、通告書に基づき質問をいたします。

3名の同僚議員が今回の大地震について質問をされておられますが、いざというときに備える対策は必要でありますので、私は恒久的避難施設の建設についてお尋ねをいたします。

例えばふだんは運動公園などに使用されて、大雨が降った場合に雨水をためて下流を守る遊水池があります。これと同じ発想で、恒久的な避難施設を造ってはどうかについてお伺いをいたします。

地震に限らず自然災害は、忘れた頃にやってくると昔は言われてきましたが、現在では毎年のように発生し、それも大災害を起こしています。そのたびに避難所が開設されていますが、その在り方が問題になっていると感じています。そこで、平常時は商業施設としてできればクリニックを併設し、非常時には商品を提供していただき、医師に非常時外来をお願いすること、また、会議室などとしての利用も可能な建物にすべきと考えます。会議室は非常時にはパーティションなどでプライバシーが守れる居住空間をつくるようにします。循環式地下

応急給水タンクや自家発電施設を設置することも考えられます。1か所で被災者全員を受け入れることは到底できないでしょうが、せめて持病を持った人や災害弱者と言われる人たちだけでも収容できると思います。当然、立地場所、建設、運用費等などの課題はございますが、被災地の拠点として大きな機能を果たすと考えます。

昨年、私は9月の定例議会の一般質問で、災害避難時のペット対策についてお伺いをいたしました。このたびの能登半島地震で、命は助かったものの家は全壊し、避難しなければならぬが、ペットがいるため避難できずに寒さの中、車庫またはビニールハウス、また車の中で生活している人も多くおられます。現に、今、町内のNPO法人福井の犬・猫を救う会のメンバーの方々が、そのペットを何頭か引き受けておられます方々がおられます。恒久的避難施設の建設がもし可能ならば、その一部にペット専用の部屋も造ってもと思います。

避難所は、公共施設がほとんどでございます。能登半島では公共施設も被災をしています。その中で、小・中・高等学校も当然避難所になり、学期が始まってスタートもできませんでした。市外の学校に集団避難する事態まで起きています。本部になる本町役場にも、当然避難所になりますと機能が麻痺し、救助や復興の妨げになってはなりません。ペットと一緒に当たり前の避難ができる施設があるべきではないでしょうか。町長として、今回の能登半島地震、どう受け止められましたか、お伺いをいたします。

○議長（佐々木一郎君） 町長。

○町長（青柳良彦君） それでは、笠原議員のご質問にお答えいたします。

本町では、災害被災者の一時居住先として、コミュニティセンター、学校、町営体育館など29の公共施設を避難所に指定しています。ほかにも、光道園を含む5施設と災害協定を締結し、福祉避難所として高齢者や要配慮者の避難受入れについて協力体制を整えています。国の基準による計算では、本町の避難所の施設面積は、町の人口を十分にカバーできる収容能力があり、町内における避難所は充足しているものと考えています。

町内の公共施設の中でも、学校施設は、建物が堅牢な造りで、体育館のつり天井の改修が進むなど、耐震基準を満たしており、中には受水設備に貯水ができる施設もあることから、避難所には適した施設です。

議員ご提案の恒久的避難施設の建設は、行政機能の維持、学校の授業再開など災害後における早期の復旧復興を考えると、有効な手段かもしれませんが、敷地の確保や取得、建設にかかる費用の財源確保など課題が多く、費用対効果も考慮すると非常にハードルが高いものと思われまます。

喫緊の避難所対策においては、既存施設における停電時の対応や井戸水の活用方法、ペットの同行避難対応も含めた長期避難時における体制づくりなど、より実践的な準備を整えることが重要であると考えています。

今回の能登半島地震では、自然災害は時・場所を問わず、情け容赦なく発生するものと痛感いたしました。津波警報時の対応においては、職員の参集や避難所開設の準備、運営、非常食の提供や暖房の確保などについて様々な課題が浮き彫りになりました。課題の一つひとつをしっかりと整理し、今後の災害対応の改善につなげてまいります。

以上です。

○議長（佐々木一郎君） 笠原秀樹君。

○12番（笠原秀樹君） ありがとうございます。

私はある町民の皆さんから9月に災害時のペット対策について質問をいたしまし

たら、今回の地震が起きて、「あんたそれ想像してたのか」と言われたものでございしましたが、まさにこんな短い間隔で重要なことが起きるとは、誠に思ってもいませんでしたので、普段の備えが大事だということを改めて感じたところでございます。

今、町長の答弁いただきましたが、これは私はあくまでも避難所施設の建設ということで通告書を出させていただきましたので、町長の答弁、そのとおりになるかと思えますけれども、全体をこの災害を考えて今思っていることを少し述べさせていただきます。

確かに、新たに箱物ということになりますと、町民の皆さんから批判されることがあるかも知れませんが、避難所になるべき施設となると、理解も得られるかと思えます。当然新設には限らず、現在進められている小・中・高の統廃合で、既存する建物を再利用することも考えられます。既に小・中・高は避難施設になっておりますが、これをもしその統廃合後に重用していただいて、検討していただくこともお願いをいたしたいと思えます。当然老朽化していれば、補修し、安全な建物にして使用できればと思えます。地域の皆さんと利用先についての話合いも行われると思えますが、このことについても案に入れて検討していただきたいと思えます。

各集落で避難訓練を実施していただき、町民の防災意識の向上を図るべきと考えます。能登半島の1つの集落、これ非常に日頃から何かあったら集落センターへ、ニュースで報じられておりますが、これを合い言葉に日頃訓練をされておられまして、当日一人の死者も出さず、避難ができた。日頃の訓練が生きたと言われております。これだけ頻繁に、それも身近で災害が起きている。職員の皆さんの中でも防災士の資格、これ昨日お聞きしましたら、持っておられる方が役場にも何人かおられるということで、安心をしましたんですが、なければ検討をされるべきではないかと思えます。福井市で今、市営球場の跡地にアリーナ構想が進行中であります。これ、市議会で、県議会でもそうですが、議論をされておりますが、箱物は今さら要らないと、以上な反対論も多数あると報道されておりますが、箱物全体が全て悪いと私は言えないところもあるのではないかなという思いもいたします。

その災害時、石川県に俳優の杉良太郎が炊き出しをされたとニュースをされております。3日間で被災者に温かい食事を提供をされておられます。その行為に対して心ない人たちから、売名行為との誹謗中傷が上がっているということについて杉さん本人は、堂々と売名行為ですとはっきりと言い、中傷する人たちに、できるならあなたたちもどうぞおやりなさいと、できないならせめて被災者の人たちの身になって祈ったり一日も早い復興を願ったりして応援することぐらいはできるでしょうと諭されておられました。今までに神戸や福島、さらに熊本、さらにまた海外でも私財を40億を投じて支援しているとのことで、なかなか真似のできることはありません。すばらしい行動でございます。また、2月26日は2回目の炊き出しをされて、そのときには奥様の伍代夏子さんもお手伝いをされておられました。被災者から炊き出しもありがたいが、お2人が顔だけ出しているだけで癒されるという、喜んで感謝されているのをテレビで見ました。

私も2年間の中日本町村議長会の会長として石川県の会長をされました能登町議会の議員さんも被災されておられます。僅かですが、支援物資を送らせていただきました。うちは農家ですから、米を送らせていただいたんですが、お礼の言葉の後に、残念ながら水道が出ませんので、ご飯が炊けませんということでしたの

で、慌てて翌日また水を送ったところでございます。少しでもその力になればとの思いで、能登のカキ、これ、私毎年頂いているんですが、発送できるようになったことをお聞きしまして、注文をさせていただきました。今後、何年も続くであろうと思いますが、他人事と思わず、非常時に備え、しっかりとした準備をどこでもしておくべきではないのかなという思いで質問をさせていただきました。

現在ペットと一緒に避難されている方はほんの一部分だけで、今何十頭もの犬・猫が放浪しているということを聞いております。今現在、十何年もたった福島でも、3,000頭もの犬・猫が野生化しているというような状況だそうでございます。当然、避難所に犬やペットを連れていきますと、家族は家族と一緒に思いますけれども、ほかの人に言わせると、匂いが気になる、声がうるさいとかといういろいろ問題はあると思いますが、こういう時期だからこそ、ペットと一緒にいれば心が癒されると私は思います。

全国の調査にでもよりますと、専用避難所、ペットと一緒に専用避難所を開設すると回答されたのは、福島、北九州、佐賀、長崎、熊本、宮崎の6市だけだそうでございます。宮崎市は9か所を用意するとされておられますが、残りの5市は1か所、試行的に設置をと考えておられるということで、非常にこれ難しい、私も質問はさせていただきましたが、難しいこともあるかと思いますが、今現在、本当に我が町が今、能登半島と同じ状態になった場合、それを考えたら、これやっぱり今後慎重に、前向きに検討をしていかなければならないのではないかと思います。最後に町長の今回の能登半島地震に対してどうあるべきかをお尋ねをいたします。

○議長（佐々木一郎君） 町長。

○町長（青柳良彦君） 今ほど笠原議員のお話、大変参考になります。能登半島の地震におきましては、非常に最悪のような条件が重なったということで、ご存じのような被害状況になっておるといふふうに認識しております。

町の防災対策につきましては、やはり毎年の総合防災計画にも訓練を行っておりますけれども、越前町の町内におきましても、先日の答弁で申し上げました地区による防災組織が立ち上がっておりますところは結構ありますので、そういったところにまず独自の訓練というんですか、地区地区に集落に合ったような独自性があると思います。やはりお年寄りが大変多いところでもありますとか、昼間は本当に人がいないとかというような独自性があると思いますので、そういった独自性を考慮した訓練をまた働きかけていかなければならないし、おっしゃるとおり、本当に災害というのは本当に最悪のことを想定して、そればかり心配しては、日頃の生活もちよっとごちなくなりますけれども、最悪のことを想定しながら、楽観的に生活をする。誤解がないとは思いますが、確かに災害については、最悪のことは常に念頭に置いておくべきであるということは、これからも事あるごとに周知にしていきたいなというふうに思っております。そういう総合的なお答えしかできませんけれども、今できることは、町民の皆さんの防災意識の向上、これに尽きるかなというふうに考えております。

○議長（佐々木一郎君） 笠原秀樹君。

○12番（笠原秀樹君） 今後も町民の皆様の安全・安心のためのまちづくりにご尽力いただきますことを強く要望いたしまして、質問を終わります。

（午前11時25分 終了）